

▶ アーカイブが複雑すぎる？

今こそ自動化を

データ量の急速な増加、保持ポリシーに対する要求の高まり、ストレージ管理コストの増大などの現状に、あなたの会社の IT 部門は苦労していませんか？大丈夫です。あなたひとりではありません。

メール、スプレッドシート、ドキュメント、画像などの非構造化データの多さのためにデータは毎年 40 ~ 50% 増加しており、そのすべてのデータをどこに、どのように保存し、バックアップ、アーカイブ、リストアをするかを決めるのは非常に困難です。これらを始めとするさまざまな問題が重なり合うことで、アーカイブから即座にデータを見つけ、取り出すという最も重要なタスクは、急激に複雑さが増しています。

残念ながら、アーカイブに関してはあまりにも多くの組織が、現在まで手動のプロセスと人為的介入に頼ってきました。過去にはそれが非効率であっても適切だったかもしれませんが、多くの組織は現在、次のような冷厳な事実と直面しています。それは、アーカイブの重要性と複雑性の高まりは、もはや古いプロセスやツールにこだわっていることを許さない地点に到達しているということです。



その一方で、IT 部門はこのとどまることを知らないデータの増大に対処しながら、コンプライアンス、ガバナンス、ディスクバリーの要件にも対応できる、自動アーカイブ ソリューションを求めています。それは単にデータ量が膨大で、さまざまな理由でそのデータの取り出し要求が増えているという問題ではありません。また、すべての重要なデータの場所と状態をしっかりと把握できない可能性も懸念されます。特に、データセンターインフラストラクチャ以外の場所、たとえば USB メモリや PST ファイル、クラウドベースのファイル同期共有サービスに置かれたデータが増えるにつれて、この問題は深刻化しています。

効果的な対策は、ポリシー管理、データ移行、仮想インフラストラクチャです。そのため、将来的には自動アーカイブソリューションが強く求められることになるかと想定されます。複雑さを減らすことは現在の IT 業界で最も重視されていることのひとつであり、アーカイブプロセスの自動化はその実現に貢献するものです。IT 部門を対象とした最近の調査によると、組織におけるコンプライアンス用の現在のアーカイブ システムが高度に自動化されていると回答したのは 23% に過ぎず、54% が近い将来、自動アーカイブ ソリューションに投資したいと回答しました。¹

多くの組織では「何を保存し、何を移動し、何を削除するか」という根本的な問題の規模、複雑性、重要性があまりにも増したため、個々の従業員の裁量に任せたり、厳格に定義された保持ポリシーに頼ったりするだけでは不十分になっています。この複雑さを減らすことが不可欠であり、自動アーカイブはそれに向けた大きな一歩です。

なぜこれが大問題なのか

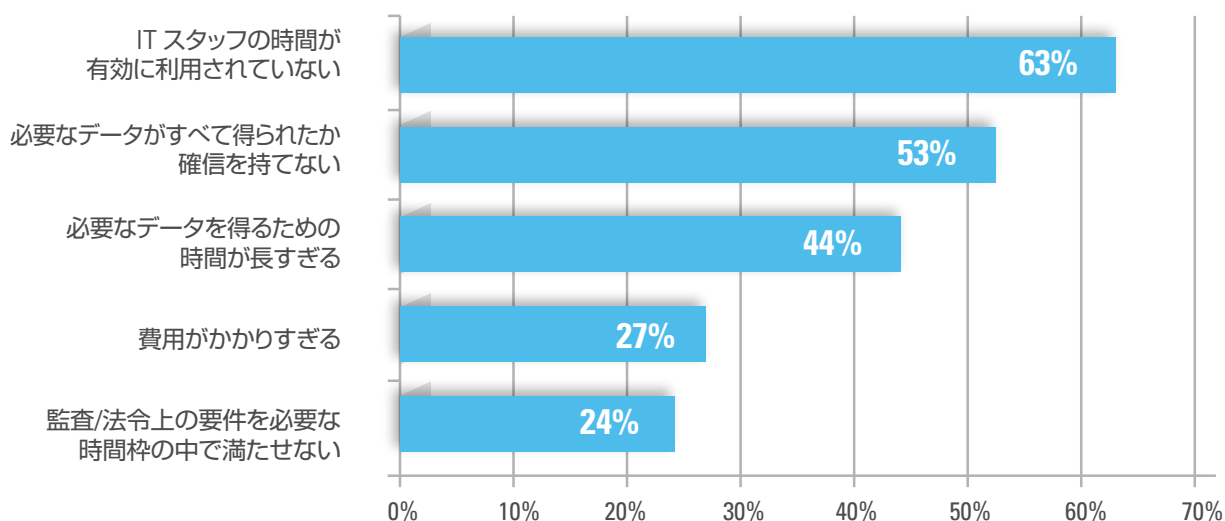
完全に自動化されたアーカイブ システムがないと、非効率性は避けられず、最悪の場合は広範囲にわたってリスク要因が大幅に増加します。また、自動アーカイブ ソリューションがないことは財務上さまざまな影響を与えます。

計画的な要件、そしてそれ以上に計画外の要件によりよく備えるために、特にコンプライアンスと法的証拠開示に関して自動アーカイブ ソリューションを採用する必要があるという考え方には、大きな課題がいくつかあります。

¹ 「自動アーカイブ機能の必要性が高まっていることが調査によって明らかに」、TechTarget/Commvault、2015 年 8 月

しかし、十分な自動化を欠くアーカイブシステムにより生じるもっとも大きな問題のひとつは、社内スタッフが情報に対する要求に手動で対応することで、貴重な時間、エネルギー、リソースが無駄に消費されることです。IT 専門家とストレージ管理者を対象にした調査によると、“IT スタッフの時間が有効に活用されていない”ことが、コンプライアンスまたはディスカバリーのためのデータのアーカイブに手動プロセスを利用している組織の最も大きな課題になっています。²

コンプライアンス/ディスカバリーのためのアーカイブ手動プロセスの課題



出典:「自動アーカイブ機能の必要性が高まっていることが調査によって明らかに」、TechTarget/Commvault、2015年8月

これらの課題はさらに深刻化し、対処が困難になってきています。それは、現在のアーカイブがその初期段階で対象にしていたメールよりもはるかに広い範囲に応用されているためです。“問題はもはやメールだけではありません”と、調査会社 Info-Tech Research Group は述べています。“市場は、大企業が今日必要としているより大きなアーカイブニーズを満たすよう変化しています。”³

アーカイブの複雑さを高めているのは、メールよりも高度なワークロードに対応するための、アーカイブプラットフォームのマルチソリューション化です。Forrester Research の調査によると、メールに関しては 74% の組織がエンタープライズ全体を対象に単一のアーカイブソリューションを利用していますが、

² 同書、脚注 1

³ 「ベンダーの展望：コンテンツとメールのアーカイブ」、Info-Tech Research Group、2014年9月

コンテンツまたはドキュメントをソースとする単一の標準的なアーカイブソリューションを利用しているのは 38% に過ぎません。⁴ そして Forrester によると、27% の組織は少なくとも 3 種類のアーカイブソリューションを使用しています。この異種混合アーカイブ環境は、必然的に複雑さの増大、コストの上昇、非効率性の増大、そしてアーカイブの検索時に重要な情報が見過ごされるリスクを招きます。

また、コンプライアンス要求が厳しさを増し、組織が保持する必要のある情報の種類や期間に関する指定が細かくなっていることにも注意する必要があります。金融サービス、医療、製薬、製造、エネルギーなどの規制が厳しい業界では遂行要件が複雑さを増しており、そのような重圧に耐えるためには、新しい自動化されたアプローチが必要です。

状況を厳しくしているのはコンプライアンスだけではありません。あらゆる市場、地域で、ほぼすべての規模の組織が情報ガバナンス ポリシーを徐々に強化しており、既に手一杯の社内スタッフや従来型のアーカイブシステムにかかる重圧は増えています。こうした要件を突き付けられた組織が現状から抜け出すための唯一の手段は、より多くのプロセスを自動化できるソリューションです。

さらに、IT 部門もビジネスの利害関係者も、アーカイブが洞察に役立つ宝の山であることに気付いています。アーカイブからはソーシャル メディアなどの幅広い非構造化データを含むデータ ソースにアクセスでき、ユニークでアクションにつながる洞察が得られるためです。こうしたデータは、アーカイブから掘り起こすことで最も大きな恩恵を被る組織の利害関係者からはほとんど見えないことが多いため、“ダーク データ”、“隠れデータ” と呼ばれることがあります。コストがかかり大きな労働力を要する手動のシステムが足かせとなって、こうしたデータをアーカイブから適切に見つけ出し、抽出することができなければ、組織はきわめて大きな機会を逃すことになります。

自動化ソリューションに求めるもの

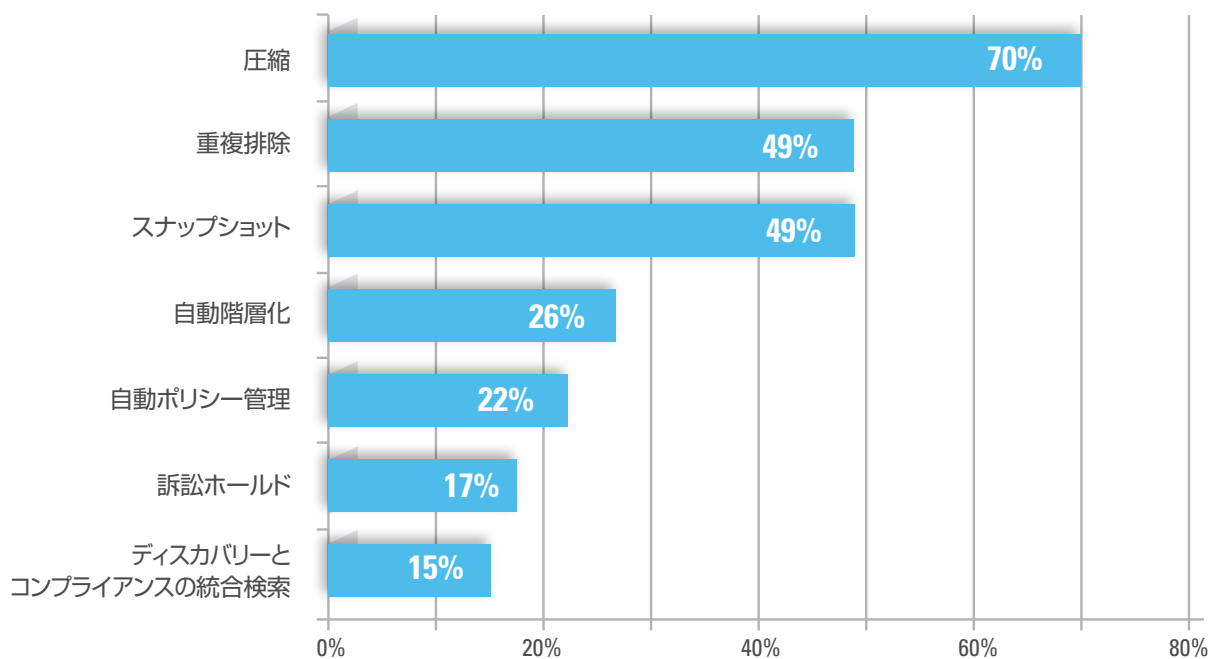
自動化が進んだアプローチをアーカイブに採用することの重要性を理解したら、次は目標に到達するために求める、欠かせない機能があることに注意します。これは、さまざまなサプライヤーによる各種製品、サービスを整理し、組織固有のニーズにとって最も効率的で適切な選択をするうえで重要なステップです。

⁴ 「市場の概要：情報アーカイブ 2015 年第 2 四半期」、Forrester Research、2015 年 5 月

自動化されたアーカイブソリューションは、圧縮、重複排除、スナップショットなどの基本的なストレージ管理機能をサポートしている必要があります。これらの機能は、データ損失防止、ストレージ容量の利用最適化、バックアップ/リカバリに欠かせないというだけでなく、自動ポリシー管理の重要な要素でもあります。そして、より複雑さを増すアーカイブ要件に応えるには、自動ポリシー管理はなくてはならない機能です。

実際に、IT スタッフを対象にした調査によると、圧縮、重複排除、スナップショットは多くのアーカイブシステムで利用されています。⁵ しかし、まだ広く採用されていなくて、自動化に含めることが望まれる機能も数多くあります。

現在お使いのアーカイブシステムがサポートしている機能は？



出典:「自動アーカイブ機能の必要性が高まっていることが調査によって明らかに」、TechTarget/Commvault、2015年8月

5 同書、脚注1

ストレージの自動階層化は、アーカイブに求められるもう 1 つの重要な機能です。今まで長い間、自動階層化の最も魅力的なメリットはコスト効率の高さでした。それは、ビジネスの条件やポリシーに基づいてデータを高価なオンラインメディアから安価なオフラインメディアに簡単に、高速に、そして高い信頼性で移行できるためです。しかし、別の重要なメリットが出てきました。それは、法的証拠開示、コンプライアンスに関連した論争、予定外のサービス停止などの事態が発生したときに、オンプレミス、クラウド、仮想マシン、リモートのデータセンターなど、どこからでも高速かつ高い信頼性で重要なデータを抽出できるということです。

それ以外にも、次のような機能を備えているかどうかを確認する必要があります。

- 法的証拠開示プロセスの際に、コンテンツの重複とアクセスを制御する自動分類。
- Tier 1 のエンタープライズ アプリケーションの完全かつ包括的なアーカイブを作成するためのアプリケーションとの統合。
- e ディスカバリー / コンプライアンスの統合検索。これにより、法的要件や規制上の要件に共通の関連するデータを調査するプロセスを自動化できます。
- 表、データ レコード、ファイル、またはそれらが混在するレコードのアーカイブなどに対応する、複数のデータ抽出方法の自動サポート。

変化を望まないなど異論の克服

まだ自動アーカイブを本格的に導入していない組織で、自動化ソリューションへ移行し、投資を行うには、IT、コンプライアンス、法務、財務などの部門の役員クラスの利害関係者が考え方を必要になる場合があります。

自動アーカイブ プラットフォームの導入には、一定レベルで財務的な取り組みが必要であることは間違いありません。また、予算申請に対して、経済面および運営面に関する次のような質問が投げかけられることは避けられません。

- このシステムによって設備費または運営費を節約できるか？あるいは、その両方を節約できるか？
- それを導入することで、何ができるようになり、何が改善されるのか？
- 自動化すると意思決定の権限が当社の担当者の手を離れてしまうのではないか？
- 現在のシステムでも問題なく機能しているのではないか？

これらはすべて妥当で、よく質問されることですが、より高度な自動化を行うアーカイブシステムに移行する際、または新たにそのようなシステムを導入する際は、これらの質問に答えなければなりません。

自動アーカイブシステムの優れた点の 1 つはコスト削減であり、これは財務担当の役員にとって間違いなく最も魅力的な点です。コンプライアンス上の要請や企業統治ポリシーにより、保持が要求されるデータの量も期間も増大していく中で、組織はストレージ インフラストラクチャへの投資を強いられ続けています。より多くのハード ドライブ、より多くのテープ ライブラリ、より多くのストレージ管理ライセンスなど、すべてが予算の増大につながります。自動アーカイブシステムは、ストレージ インフラストラクチャ投資を増やす必要性を大幅に減らし、物理スペース、電力、空調費、手動アップデートによるダウンタイムを削減することも可能です。

さらに、自動アーカイブシステムを利用して、保持する必要がある重要なデータではあるが、本番システムには使用されないデータを、高価なプライマリ ストレージ システムから比較的成本の低いニアラインまたはオフラインのストレージ システムに移動することで、費用を節約することもできます。

自動アーカイブが持つ運用面でのもう 1 つのメリットは、監査要件を満たす的確なデータを短時間かつ高い信頼性で特定し、取り出すことができることです。さらに重要な機能として、リアルタイムでアドホックなリクエストに応えることができます。昔から使われているその場しのぎの手作業に頼るのではなく、自動化されたアーカイブ プラットフォームを使用することで、さまざまな種類のアプリケーション、データベース、レポジトリ、さらにはデバイスがいくつあっても、その中に含まれる大量のデータを選別して、突発的な要求にも的確なデータを提供することができます。

最後に、最も重要なメリットの 1 つは、IT スタッフを手動によるその場しのぎ的なアーカイブ作業から解放し、代わりにビジネスを前進させるための革新的な活動に従事させることができるという点です。" 明かりをつけておく " タイプの仕事は常に IT スタッフの重要な役目ですが、自動アーカイブがあれば、通常 IT スタッフが行っているこうした業務の多くを肩代わりしてくれます。新しいモデルでも、アーカイブ業務は、依然としてまるで人が介入して行っているかのように行われます。これは、自動アーカイブを導入する際のプランの段階で、優先順位の設定、データ保持ポリシーの確立、例外パスの決定やその他アクティビティに、人間が密接にかかわっているからです。

COMMVAULT のソリューション

Commvault は、ストレージ管理とその主要機能であるバックアップ、アーカイブ、リカバリの分野でリーダーの地位を長く守り続けており、そのアーカイブ プラットフォームはコンプライアンスや法的証拠開示の分野で幅広く使用されています。

Commvault のアーカイブ ソリューションは、幅広い自動化機能をサポートしており、複雑性の低減、短期間での導入、スケーラビリティの促進、コスト効果の向上を実現します。たとえば、1 回のデータ収集でバックアップ、アーカイブ、レポートをまとめて処理できるほか、共通インフラストラクチャによって管理オーバーヘッドを減らし、データ保持に関する高度なポリシー管理を可能にしつつ、データの急成長という問題に対処できます。

Commvault の自動化ソリューションは高度なアナリティクス ツールも備えており、構造化データと非構造化データに広範囲で深いレベルのインテリジェンスをもたらします。これらのアナリティクス ツールによって組織は、どのデータを保存、削除し、どのデータを他のメディア、インフラストラクチャ、または場所に移動するかという判断をよりの確に行うことができます。これにより、ユーザーは仮説や推測ではなく実際の情報に基づいて、データ保持ポリシーを柔軟にカスタマイズできます。

法的検索およびコンプライアンスの要件に対しては、Commvault の自動アーカイブ プラットフォームは包括的、統合的なポリシー型のアプローチを用意しており、ローカルかグローバルかを問わずエンタープライズ全体に導入して管理することができます。これにより、さまざまな種類のアーカイブ ソリューションの導入で起こるサイロ化を防ぎ、ますます重要となるアーカイブ機能へのコストや複雑さが増すことはありません。**Commvault** は、ひとつのインテリジェントなインデックスをデータの**バックアップ**と**アーカイブ**の両方に利用することで、エンタープライズ全体で電子的に保存されているすべての情報を、法務とコンプライアンス チームの両方がすばやく簡単に検索、分類、選択、取得できるようにしています。

Commvault は、さまざまな環境、アプリケーション、ユース ケースを対象にアーカイブ ソリューションを提供しています。たとえば、Commvault はメール、仮想マシン、データマイグレーション、PST ファイルのアーカイブ ソリューションに関して、業界で数々の賞を受賞しており、市場でも幅広く認知されています。また、Microsoft Exchange、SharePoint、Oracle データベースなど主要エンタープライズ アプリケーションにも最適なアーカイブ ソリューションを提供しています。

結論

アーカイブは、IT 部門にとってもビジネスの利害関係者にとっても重要です。また、コンプライアンス要件や企業データのガバナンスが厳しくなっていく傾向は、手動プロセスや人為的介入に大きく頼っている従来型のアーカイブシステムに対する圧力を高める一方です。

最近まで、こうした課題に対応しようとする IT スタッフにさらなる負担を強いることになり、成果も不十分なものになりがちでした。しかし現在の組織は、IT 部門の負担を軽減し、応答性、信頼性、正確性、コスト効率を高めるために、自動アーカイブシステムに目を向けるようになっていきます。

Commvault は、アーカイブ分野だけでなく、幅広いストレージ管理、バックアップ、リカバリ、データ消失保護においても、これまで優れた実績を残してきました。Commvault は、最も優れたアーカイブソリューションは、自動化によって IT スタッフの負荷を軽減し、構造化 / 非構造化データの両方の保存、インデックス化、抽出、レポート作成へのますます高まる要求に、組織の応答性を高めることができるソリューションであると考えます。

アーカイブシステムを最大限に活用する方法の詳細については、[infotech-vendor-landscape-content-and-email-archiving-1.pptx](#) を参照してください。